

西海ブロック水産業情報

NO. 78 (平成24年7月～9月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
記載なし	<p>【有明海】ガザミは水産庁事業で6/20～8/22にC3サイズを中心に753千尾を放流。クルマエビは水産庁事業で6/21～7/21日に50mmサイズは101万尾、大型種苗を10/9に1万尾放流。</p> <p>ノリ養殖：7/14の集中豪雨で、中島漁協を中心に32件のカキ殻糸状体浸水被害が発生した。9月末で2ヶ月以上経過したことになるが、これまでのところ病気等の発生は認められていない。糸状体の生育状況は順調である。</p> <p>【豊前海】[かき養殖]・コレクターへ付着個数は少ないものの、一部地域を除き7月以降大きなへい死は見られず、成長・身入りとも比較的順調。</p> <p>・6漁協及び支所で自家採苗を行い、約11万枚(コレクター)の種苗を確保、現在抑制処理中。</p> <p>[栽培漁業]・クルマエビ及びヨシエビについて中間育成を行った後、放流。</p> <p>・干潟及び漁港内において、「かぐや方式によるアサリ増殖試験」を実施中。</p> <p>[資源管理]・青壮年部の取り組みで、今年度は抱卵ガザミ約6,000個体の再放流を実施した。</p>	<p>【玄海】</p> <p>[種苗生産]・カサゴ：5～8月に17.6万尾を生産し、中間育成用として15万尾(全長45mmサイズ)、放流用として2.6万尾(全長40～60mmサイズ)を配布した。</p> <p>・ナマコ：アオナマコ79.5万個体(体長10～20mmサイズ)、アカナマコ72.8万個体(体長10～20mmサイズ)を生産し、6～8月に放流用として配布した。</p> <p>[試験研究]・沿岸地先3カ所で、食害種駆除および食害種進入防止柵、母藻投入等による漁場回復試験を昨年度に引き続き実施中。8月の調査では母藻投入種の新芽を確認した。</p> <p>[有明]</p> <p>「研究の動向」[水産資源関係]・タイラギ・サルボウ調査、漁獲物動向調査(市場調査)を実施。</p> <p>[水産海洋・漁場保全関係]・浅海定線調査、漁場環境モニタリング調査(底質、マクロベントス)、サルボウ適正生息環境調査(水質)、貝毒分析(カキ)</p> <p>[水産増養殖関係]・放流アゲマキ追跡調査、アサリ・サルボウ生息量調査</p> <p>・養殖マガキの付着密度比較試験、垂下水深比較試験および長期抑制試験</p> <p>・有明海産カキ類の採苗・養殖試験</p> <p>・沖合域におけるモカイ殻散布耕耘試験の追跡調査</p> <p>・サルボウの浮遊幼生等調査</p> <p>[その他]・有明水産振興センターのホームページに漁場情報として、赤潮情報や海況関連情報の公開を継続中。</p> <p>「水産業の動向」[水産資源関係]・タイラギ：9月13日に5地点で生息状況を調査した。その結果、成貝は確認できなかったが、3地点でH24年級群を確認し、殻長は4cm程度、生息密度は最高で0.14個/m²であった。</p> <p>・サルボウ：7月11日から14日にかけて発生した九州北部豪雨により、サルボウ漁場全域が著しく低塩分化した。さらに、その後の猛暑の影響により、著しい塩分・水温成層が発達した。このことにより、7月中旬から8月上旬にかけて今漁期主力漁場となった沖合域を中心に大規模な貧酸素水塊が形成された。このため、7月下旬から8月上旬にかけて、サルボウの大量死が確認された。その後も沖神瀬西から国営干拓沖にかけては貧酸素状態が継続し、さらに、9月3日のシャットネラ赤潮の初認以降、9月17日にかけて、サルボウ漁場のほぼ全域が著しく貧酸素化したことから、サルボウのさらなる死が懸念される状況である。なお、現在、サルボウ漁場全域において生息状況を調査中。</p> <p>[水産海洋・漁場保全関係]・水温は、7、8月は平年より高め、9月は平年並みで変動した。</p> <p>・比重は、7、8月は平年より低め、9月は平年並みで変動した。</p> <p>[水産増養殖関係]・マガキ養殖：マガキ養殖については、宮城県産種カキを昨年11月下旬に必要量(ホタテ殻で約25万枚)入手し、20経営体が23基の筏で行っている。今年度は、夏季の水温が30℃を超える日がなかったものの餌料環境が良かったため、フジツボ等競合生物の成育が良く、それらが大量に付着している状況となった。このため、産卵疲弊と相まって8月中旬から9月下旬にかけて大量死が発生した。さらに、生残貝もフジツボ・ホトギス等に覆われた状態となっていることから、さらなる死と成育不良が懸念される状況である。なお、今年度は、これまでになく天然稚貝の付着数が多い状況にある。</p>	<p>○良質な種苗の生産技術開発研究事業</p> <p>[カワハギ]天然養成親魚および人工養成親魚からの稚魚で飼育試験を実施し、7月下旬までに全長15mmの稚魚1万7千尾を取上げ、2次飼育実施後全長50mmサイズ6,500尾を生産した。</p> <p>[クエ]形態異常低減化のための飼育試験を実施し、7月下旬に全長42mmの稚魚14万尾を生産した。形態異常の出現率については継続して精査分析中である。</p> <p>[クロマグロ]7月11日に水産総合研究センター西海区水産研究所奄美庁舎から譲渡された受精卵を用いて種苗生産試験を実施し、8月17日に平均全長60mmの稚魚4,400尾を取上げて、五島の養殖場への輸送試験を行った。</p> <p>○クロマグロの種苗生産に向けた飼養技術の高度化(プロジェクト研究)：8月中旬に1kL水槽に仔魚を分槽して餌料種類等を替えた共食い防止用飼育試験を実施した。</p> <p>○標識放流：トラフグ(全長7cm、58万尾、有明海)、クルマエビ(全長6～9cm、51万尾、有明海)、ガザミ(10～15mm、37万尾、有明海)</p> <p>○放流魚追跡調査：トラフグ、ホシガレイ、ヒラメ、アワビ他について追跡調査を実施。</p> <p>○貝類の増養殖技術開発「タイラギ」貝類散布による漁場改良試験、種苗生産の基礎試験を実施中。</p> <p>「マガキ」シングルシードの養殖試験を実施中</p>	<p>6月末から冬出荷エビの生産が開始された。また9月末に県内種苗生産施設でクルマエビ種苗にPAVが発生した。発生群は殺処分された。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・7/4～7に鹿児島湾奥(福山～牛根沖)で赤潮(ヘテロシグマアガシオ)が発生。最高細胞数97,600cells/ml 漁業被害なし</p> <p>・スジアラ種苗生産：9月採卵分を20トン水槽2面で生産中</p> <p>・サバヒ一種苗生産：8月採卵分を60トン水槽2面で生産中</p>	<p>イワガキ種苗生産試験：平成24年7月11日から試験を開始した。21日齢における生残浮遊貝12万4千個(推定)を6万2千個ずつ2水槽に分槽し、成貝処理原盤区(使用する付着原盤をあらかじめ成貝飼育水に浸漬)と無処理原盤区として、翌日ホタテ原盤を各水槽に垂下し、37日齢(8/17)で付着稚貝を肉眼(ルーペ補助)にて計数した。</p> <p>《結果》</p> <p>成貝処理原盤区 13,232個(付着率21.3%)</p> <p>無処理原盤区 6,792個(同 11.0%)</p> <p>合計20,024個の付着を確認した。(H23実績 水槽①：6.1%、水槽②：9.0%；共に無処理)</p> <p>その後40日齢(8/20)で青島港試験筏における沖出し飼育に移行した。(平均殻高3.8mm)</p>	掲載なし	掲載なし